石田三成に逢える近江路

MEET
長浜・米原・彦根
三成

〈ミツナリスト〉が史跡案内

第一陣 三成出生地と秀吉との出逢い
第二陣 賤ヶ岳合戦で情報戦を制す
第三陣 佐和山城跡と周辺寺院をゆく

三成会議
MITSUNARI MEETING

イラスト:もとむらえり　写真:佐和山城大手の夕焼け

▲「三成水汲みの井戸」がある大原観音寺

▲秀吉と三成の「出逢い」の像

▲「お墓が埋まっていた塚に登るとおなかが痛くなると言われていました」と話す石田三成公事蹟顕彰会の木下茂昭理事長

▲八幡神社に安置されている供養塔

▲「三成産湯の井戸」まで歩いてすぐ

石田会館前の石田三成像と石碑

大雄 ミツナリストが史跡案内 第一陣

三成出生地と秀吉との出逢い

石田三成は近江国坂田郡石田村（滋賀県長浜市石田町）に生まれた。長浜市長浜城歴史博物館の太田浩司学芸員に石田とその周辺を案内してもらおう。

案内人 太田浩司
長浜市長浜城歴史博物館
学芸員

三成の出生地・石田

現地を訪れると「石田治部少輔出生地」と刻まれた碑と石田三成像が迎えてくれる。石田会館では三成の事跡をパネルなどで紹介している。

石田に残る小字名「治部」は三成の官途「治部少輔」から命名されたもので、その「治部」の南西端に「堀端」あるいは「治部池」と呼ばれる小さな池があり、石田屋敷の堀の一部であると伝えられている。石田家は、土豪とか地侍とか呼ばれる「村の武士」であった。この地には、他の土豪の家と同じように、堀と土塁で囲まれた70m四方ほどの屋敷があったと考えられる。

▲石田会館横の「治部池」

屋敷跡の東には、石田家の氏神といわれる八幡神社がある。昭和16年、神社の境内から、故意に割られた多数の五輪塔残欠が発見された。その一部には、天文・永禄の年号が刻まれているものもあり、石田家に関係ある墓で、その滅亡後破壊されたのではないかと推定されている。昭和47年になって八幡宮の裏手に供養塔が新たに建立され、その周りに出土した墓石も改葬されている。

三成と秀吉との出会い

三成と秀吉の出会いについては「三献の茶」の逸話が『武将感状記』など江戸時代の複数の逸話集に掲載されている。

> ——長浜城主の秀吉が鷹狩りの帰り喉が渇き、ある寺に立ち寄り茶を求めた。寺の小姓だった三成はぬるめの茶を大きな茶碗で出し、もう一杯求められると少し熱い茶を茶碗半分足らず出した。秀吉が試みにもう一杯求めると、三成は熱い茶を小さな茶碗で出した。秀吉はその気働きに感じ入り近習とした。

この「ある寺」がどこであるかについては、米原市朝日の大原観音寺説と、長浜市木之本町古橋の法華寺三珠院説の二つがある。

大原観音寺と法華寺三珠院

観音寺は、三成が生まれた石田から峠を東に越えた、かつての大原荘内、現在の米原市朝日にある天台宗寺院である（観音坂トンネルを越えてすぐ）。寺内には「三成水汲みの井戸」があり、滋賀県指定文化財となっている600点余にのぼるその所蔵文書の中に、石田村の土豪だった石田氏の姿が散見される。

三珠院説からは石田家と古橋村の深いつながりを導き出すことができ、関ケ原合戦後、三成がなぜ古橋に隠れたかという謎を解決する。

観音寺説からは、父・正継の浅井氏家臣時代の動向を知ることができ、究極のところ伝承しか存在しない三成石田村出生の事実を、先祖や父親の史料で裏付けることができる。

JR長浜駅東口には三献茶の逸話にちなむ秀吉と三成の「出逢い」の像が立っている。

問 長浜市観光振興課 ☎0749・62・4111
問 米原市商工観光課 ☎0749・58・2227

賤ヶ岳合戦で情報戦を制す

大雄 ミツナリストが史跡案内 第二陣

織田信長の死後、羽柴秀吉が柴田勝家を制した賤ヶ岳合戦。
加藤清正ら七本槍の活躍が有名だが、その裏には、
石田三成が放った「忍びの者」の暗躍があった。

賤ヶ岳上空から望む琵琶湖（左奥）と余呉湖（右手前）

案内人 太田浩司
長浜市長浜城歴史博物館
学芸員

賤ヶ岳合戦と三成文書

賤ヶ岳合戦は天正11年（1583）4月、羽柴秀吉と柴田勝家が北近江の余呉湖周辺で、織田信長亡き後の後継者争いに決着をつけるため戦った合戦である。両軍が対峙する中で、三成の活躍の場があった。同年3月13日付の石田三成書状（称名寺文書）は、秀吉軍のために諜報活動を行っていた浄土真宗寺院の称名寺に宛てたものである。

柴田勝家の陣地がある柳ヶ瀬に遣わしていた者が持ち帰ってきた情報を、秀吉に申し上げたところ、非常に満足の様子だったことを称名寺に伝えている。さらに、今後も柳ヶ瀬に人を配置するよう依頼している。この柳ヶ瀬に配置した者は、もちろん「忍びの者」であろう。おそらく、敵情を偵察する役目を負っていたと見られるが、称名寺はその「忍びの者」を管理・監督する立場にあったと考えられる。

派遣した「忍びの者」の活動

「忍びの者」の具体的な行動は、三成の書状から2日後に出された称名寺宛の羽柴秀吉書状（称名寺文書）によって確認できる。それによれば、余呉湖周辺の山々に隠れている百姓に対して、秀吉側について柴田軍の首を取る手柄を上げたものは、褒美を遣わすと記されている。合戦を前にして村から逃れ、山々に潜伏している百姓に対して、秀吉側となって行動した方が有利であるとの情報を流し続けていたのである。

石田三成と国友鉄砲

近江国坂田郡国友村（長浜市国友町）は、堺と共に日本を代表する鉄砲（火縄銃）生産地であった。三成もその領国内となった国友鉄砲鍛冶を重視していた。家康との対立が決定的となっていた慶長5年（1600）7月18日付の文書で三成は、国友の鉄砲生産について秀吉が長浜城主であった時に定めた法度に従うように述べている。三成ら西軍から家康への宣戦布告状ともいえる「内府ちがひの条々」が出された翌日である。徳川方ではなく自らに優先的に鉄砲を納入することを求めたものと推定される。

問 長浜市観光振興課 ☎0749-62-4111

▲賤ヶ岳合戦図屏風（右隻、長浜市長浜城歴史博物館蔵）

▲賤ヶ岳合戦時に秀吉の本陣となった木之本地蔵院

▲賤ヶ岳合戦図（長浜市長浜城歴史博物館蔵）

▲国友鉄砲（火挟み部分）

関ヶ原から近江古橋へ

慶長年5年（1600）9月15日、三成は敗色濃厚となった関ヶ原の戦場から離脱し、再起をかけて山中に姿を消した。次に姿を現したのは6日後の9月21日。近江古橋（長浜市木之本町）は自らの領地であり、母の生まれた里であった。

三成が匿われた法華寺の塔頭・三珠院があった場所は、小さな案内板がなければわからないほどの草叢にすぎない。ただ、周囲を取り囲む杉木立は、樵の姿に身をやつした三成が、今にも現れてきそうな雰囲気を十分に醸し出している。

『東浅井郡志』はこう記している。

> ――せっかくたどり着いた三珠院もすぐに村民どもの知るところとなり、（中略）地頭に注進すると善説は突き上げられる。（中略）されば三成も安居なり難く、加え此の四五日間、木実落穂を拾い食して、腸胃を害ひ、歩行もなり難ければ、近傍の茶園にかくれ臥しけるに古橋村の与次郎太夫といへるもの、草刈に来て之を見付け、己が家に携え至りて切に之を養ふ

しかし、追っ手は、与次郎の家まで迫ってくる。三成は与次郎に背負われ、法華寺裏山の三頭山中腹にある、「大蛇」と書いて「オトチ」と読ませる岩穴へと身を潜めるのである。

三成は最後まで献身的に匿ってくれた与次郎に対し、こう言った。

> ――今は我運命極まれりとてものがれるべきにあらねば、我を田中に渡すべし。さなくば汝が身に危難来るべし

しかし、与次郎は答える。

> ――いかでさる事候べき。猶何方へも忍ばせ給へ

古橋ではこのような言い伝えが残る。

与次郎は、三成をカマス（藁で編んだ米や炭を入れる袋）に入れ、自宅のツシ（屋根裏の物置）に匿ったのだが、東軍の田中吉政らの知るところとなり、カマスごと背負って逃げようとした。しかし、高時橋の手前で行く手を止められ、カマスの中身を問われる。「芋だ」と与次郎は答えるが、槍でカマスを突かれ、袋の中の三成は「うっ」と短い声を上げてしまう。そして、とうとう捕われの身となるのだ。

その与次郎の屋敷跡は、龍泉寺（法華寺の末寺）の裏手にあり、与次郎が三成を背負ったまま、飛び降りたという石垣も、昔のままに残されている。

（田附清子）

▲古橋に残る三成ゆかりの石垣

佐和山城跡と周辺寺院をゆく

大雄 ミツナリストが史跡案内 第三陣

石田三成の城・佐和山城は、
近江国坂田郡（滋賀県長浜市・米原市）と、
犬上郡（彦根市・豊郷町・甲良町・多賀町）の境に築かれた。
その麓で生まれ育った田附清子さんに、
佐和山城とその周辺寺院を案内してもらおう。

▲龍潭寺の石田三成像

▲佐和山城内の城門だったという妙源寺の「赤門」

▲仙琳寺の石田地蔵

▲佐和山城図　文化11年（彦根城博物館蔵）

▲宗安寺の「赤門」と礎石

三成の城・佐和山城

佐和山は標高233m、比高148mで、麓から30分もあればハイキングコースで本丸のあった山頂まで登ることができる。建造物こそ残っていないが、わずかに残る石垣や土塁などの遺構から、この城の堅固さをうかがうことができる。

城の正面である大手は坂田郡側（彦根市鳥居本町）に向いて開き、城下町の名残である字名も多く残されている。しかし三成の屋敷は大手の谷とは反対の犬上郡側（彦根市古沢町）のモチノキ谷に建てられていた。

城の本丸は関ヶ原合戦後に10m以上切り落とされたという。三成に代わって領主となった井伊家は、元和の一国一城令に則り、完膚なきまでに三成の城を破壊したのである。

▲佐和山城本丸に残る石垣

佐和山麓の寺に三成を偲ぶ

井伊家の佐和山入封に伴って、遠江（静岡）井伊谷から移ってきた龍潭寺には佐和山城の陣鐘が遺されており、三成の屋敷で使われていた板戸は今も使用されている。三成の遺墨「残紅葉」はこの寺の什宝である。

清涼寺は三成の重臣・嶋左近の屋敷地だったと伝わる。本堂の裏山には井伊家11代藩主が建てた「石田群霊碑」がある。左近・佐和山城と並び、三成に過ぎたるものとして謡われた百間橋はこの寺の前から松原内湖に架けられていた。

仙琳寺には三成が水を汲んだと伝わる井戸がある。この寺の山門脇の石仏は「石田地蔵」と呼ばれ、佐和山落城後、領民たちが供養のために隠し祀っていたものである。

▲清涼寺七不思議の一つ、儚げな女人に姿を変えるというタブノキ

三成を慕う足軽のエピソード

鳥居本町を通る中山道沿いに専宗寺がある。山門右隣にある太鼓門の天井板は佐和山城の門扉を用いたものだという。身分の高低を問わず家臣や領民を大事にした三成を慕った足軽・北助が落城する佐和山城から持ち帰ったという逸話が残っている。一途に三成のことを慕う北助の想いが、400年以上も経った今も伝わってくるようだ。

▲佐和山城の用材が使われたという専宗寺太鼓門の天井板

町なかの寺に三成を偲ぶ

彦根城大手橋から伸びる夢京橋キャッスルロードの中ほどに位置する宗安寺の通称「赤門」が、佐和山城の大手門だという。この寺には、三成が亡き母の菩提を弔うために建立した瑞岳寺（一説には鳥居本町笹尾の少林寺に瑞岳寺を移したと伝わる）に祀ってあったという地蔵尊像と千体仏が安置されている。

三成の佐和山御殿を移築したと伝わる妙源寺は、本堂と庫裡は建て替えられたが、彦根のもう一つの「赤門」と呼ばれる山門は、佐和山城内の城門であったと伝わる。傷を隠すかのように裏向けて使われていた柱材は、解体修理の際に表を向けると無数の矢穴痕が姿を現した。関ヶ原合戦後の東軍による佐和山攻めの激しさを物語っているようでもある。

問 彦根市観光振興課 ☎0749-30-6120

案内人 田附清子
佐和山城研究会代表
オンライン三成会会員

佐和山城大手の夕焼け

問レンタサイクルめぐりんこ（アル・プラザ彦根1F）☎090-9210-3856　問ご城下巡回バス（湖国バス彦根営業所）☎0749-25-2501

石田三成ゆかりの武将たち

米原と彦根に館跡が残る三成重臣
嶋 左近（しまさこん）

石田三成の家臣。近江生まれとする説もあり、地元の米原市飯には嶋氏館跡が残っている。その名家老ぶりは「三成に過ぎたるもの二つあり嶋の左近に佐和山の城」と謡われた。佐和山西麓、現在の清涼寺（次ページ参照）敷地に屋敷を構え、佐和山城の三の丸に常駐したと伝わる。関ヶ原の合戦での勇猛な奮戦ぶりは東軍中でも語り草となったという。

嶋氏館跡
しまじやかたあと

所 米原市飯
電 0749-58-2227（米原市商工観光課）

米原に首塚の祠が建つ三成の盟友
大谷 吉継（おおたによしつぐ）

三成の盟友・大谷吉継は長浜市余呉町小谷（おだに）の出身といわれる。秀吉の奉行の一人として、賤ヶ岳合戦などで手柄を立て、越前敦賀城の城主となった。関ヶ原の合戦では三成率いる西軍に加わり善戦するも、東軍への寝返り組の攻撃にあい自害。その首は袋に包まれて運ばれ米原の地に埋められたともいわれ、現地には祠も建てられている。

大谷吉継の首塚
おおたによしつぐのくびづか

所 米原市下多良
電 0749-58-2227（米原市商工観光課）

三成とともに家康に対峙した
直江 兼続（なおえかねつぐ）

越後上杉謙信の養子である景勝の重臣。三成と親交が深く、賤ヶ岳合戦の直前から接触していたと考えられる。家康に対する宣戦布告ともとれる「直江状」で知られ、関ヶ原の戦いの遠因となる会津征伐を招いた。三成と密約を交わし家康を東西から挟撃しようとしたという説もある。

秀吉に天下を取らせた軍師
黒田 官兵衛（くろだかんべえ）

竹中半兵衛と並び称される秀吉の軍師。黒田氏は官兵衛の曾祖父の代まで伊香郡黒田村（長浜市木之本町）に住んでいたといわれ、官兵衛の息子・長政が人質として秀吉時代の長浜城に送られるなど北近江との縁は深い。官兵衛本人も賤ヶ岳合戦に参加している。三成らとともに豊臣政権の中核をなしたが、関ヶ原の合戦では家康率いる東軍についた。

黒田家御廟所
くろだけごびょうしょ

御廟所の付近は黒田溝屋敷と呼ばれ、黒田屋敷跡として堀割が残されている。

所 長浜市木之本町黒田727
電 0749-82-5909（奥びわ湖観光協会）

樹徳寺
じゅとくじ

黒田氏歴代の墓石と黒田官兵衛の肖像画の掛け軸が収められている。

所 長浜市木之本町田居19
電 0749-82-5909（奥びわ湖観光協会）

法證寺
ほうしょうじ

「黒田系図」を有する黒田宗満の菩提寺。隣接する荒尾神社も宗満を祀り、黒田神社と称した。

所 米原市本郷254
電 0749-58-2227（米原市商工観光課）

黒田官兵衛博覧会

大河ドラマの舞台・長浜へ
平成26年1月19日～12月28日

官兵衛の源流北近江。歴史ドラマと史跡を語り部が案内！

電 0749-82-6311（黒田官兵衛博覧会事務局）

歴史館（長浜城歴史博物館）

秀吉の出世城。三成や官兵衛ら秀吉家臣たちの関連史料を展示。

所 長浜市公園町10-10
電 0749-63-4611

大河ドラマ館（戦国大河きのもと館）

大河ドラマ「軍師官兵衛」を映像や写真パネルなどで紹介。

所 長浜市木之本町木之本1118
電 0749-82-6311

石田三成ゆかりの地を訪ねる

佐和山城跡
さわやまじょうあと
地図 P.6, P.12

三成の居城跡。山頂に本丸跡がある。団体等で登る時は清涼寺（TEL0749-22-2776）まで問い合わせが必要。

所 彦根市古沢町・佐和山町など
電 0749-22-2954（彦根市観光案内所）

大洞弁財天（長寿院）
おおほらべんざいてん（ちょうじゅいん）
地図 P.6

経蔵に並ぶ大黒様は、内湖に架けた百間橋の余材で三成の顔に似せて作られたともいう。秋にご開帳。

所 彦根市古沢町1139
電 0749-22-2617

龍潭寺
りょうたんじ
地図 P.6

境内には三成の銅像や佐和山観音像があり、裏山から佐和山に登るハイキングコースも整備されている。

所 彦根市古沢町1104
電 0749-22-2777

清涼寺
せいりょうじ
地図 P.6

井伊家の菩提寺。三成の重臣・嶋左近の屋敷地だったと伝わる。石田一族の霊を供養した「石田群霊碑」が建立されている（非公開）。

所 彦根市古沢町1100

仙琳寺
せんりんじ
地図 P.6

三成が水を汲んだと伝わる井戸がある。領民たちが供養のため隠し持っていた「石田地蔵」を安置。

所 彦根市古沢町946
電 0749-23-9877

宗安寺
そうあんじ
地図 P.6

通称「赤門」が佐和山城の大手門だと伝わる。三成の母の菩提寺にあったという地蔵尊と千体仏を安置。

所 彦根市本町2-3-7
電 0749-22-0801

蓮成寺
れんじょうじ
地図 P.6

佐和山山中の法華丸を移した寺だと伝わる。三成の念持仏であった鬼子母神像を4月と9月に公開。

所 彦根市栄町1-5-11
電 0749-22-4333

妙源寺
みょうげんじ
地図 P.6

11月に三成と一族の供養祭が行われている。朱塗りの山門が佐和山城の城門だったことをうかがわせる。

所 彦根市河原3-4-32
電 0749-30-6120（彦根市観光振興課）

専宗寺
せんしゅうじ
地図 P.6

太鼓門の天井板は、三成を慕う足軽が落城する佐和山城から持ち出した門扉を用いたものだと伝わる。

所 彦根市鳥居本町1725
電 0749-30-6120（彦根市観光振興課）

大原観音寺
おおはらかんのんじ
地図 P.2, P.12

石田町からトンネルを越えた先にある。三献茶の逸話にちなんだ「三成水汲みの井戸」がある。

所 米原市朝日1342
電 0749-58-2227（米原市商工観光課）

成菩提院
じょうぼだいいん
地図 P.12

信長や秀吉などの武将が宿営した記録や「石田三成十三ヶ条成菩提院村掟」が残されている。

所 米原市柏原1692
電 0749-57-1109

春日神社（世継）
かすがじんじゃ（よつぎ）
地図 P.12

近江國坂田郡志によれば、三成が戦勝祈願し、手ずから一株の藤を植えた。古木が藤棚をつくっている。

所 米原市世継1066
電 0749-58-2227（米原市商工観光課）

石田三成出生地
いしだみつなりしゅっしょうち
地図 P.2, P.12

石田三成屋敷跡に建つ石田会館では関連資料を展示。周辺に三成産湯の井戸などの関連史跡がある。

所 長浜市石田町576
電 0749-62-8285（石田会館）

横山城跡
よこやまじょうあと
地図 P.2, P.12

三成が生まれた石田の東の丘陵に築かれた。信長の武将であった秀吉が城番として守備していた。

所 長浜市石田町など
電 0749-64-0395（長浜市文化財保護センター）

国友鉄砲の里
くにともてっぽうのさと
地図 P.4, P.12

国友は大坂の堺とならぶ鉄砲（火縄銃）の産地として栄え、三成ら戦国武将の注文を受けていた。

所 長浜市国友町534
電 0749-62-1250（国友鉄砲の里資料館）

木之本地蔵院
きのもとじぞういん
地図 P.4, P.12

背丈6mの地蔵菩薩は眼病平癒の仏さまとして知られる。賤ヶ岳の合戦では秀吉の本陣となった。

所 長浜市木之本町木之本944
電 0749-82-2106

賤ヶ岳古戦場
しずがたけこせんじょう
地図 P.4, P.12

三也（三成）の名が初めて一次史料に登場するのが賤ヶ岳合戦。山頂からは琵琶湖と余呉湖を一望できる。

所 長浜市木之本町・余呉町
電 0749-82-5909（奥びわ湖観光協会）

己高閣・世代閣
ここうかく・よしろかく
地図 P.4, P.12

己高山中の廃寺の寺宝などを収蔵する。三成の母・瑞岳院の墓石（長浜市指定文化財）も安置。

所 長浜市木之本町古橋1100
電 0749-82-2784（古橋集会所）

法華寺跡
ほっけじあと
地図 P.4, P.12

「三献茶」もう一つの舞台。関ヶ原合戦後に三成が匿われたという。本堂に続く石段と石垣のみが残る。

所 長浜市木之本町古橋
電 0749-82-2784（古橋集会所）

大蛇の岩窟
おとちのがんくつ
地図 P.4, P.12

関ヶ原合戦後、三成が匿われたという法華寺裏山の岩窟。危険なので単独での出入りは控えること。

所 長浜市木之本町古橋
電 0749-82-2784（古橋集会所）

石田三成ゆかりの地めぐり

三成出生地と秀吉との出逢いの観音寺

JR長浜駅 ← バス25分 ← 大原観音寺 ← 徒歩5分 ← 横山登山口 ← ハイキング25分 ← 地蔵峠 ← ハイキング20分 ← 坂下 ← 徒歩10分 ← 八幡神社 ← 徒歩1分 ← 石田三成出生地（石田会館） ← バス22分 ← JR長浜駅

▲大原観音寺

▲石田会館

▲八幡神社の三成辞世の歌碑

▲横山城跡

石田・佐和山・古橋「三成の生涯」ドライブコース

北陸道長浜IC ← 車で10分 ← 石田三成出生地（石田会館） ← 車で3分 ← 大原観音寺 ← 車で30分 ← 古橋（己高閣・世代閣） ← 車で50分 ← 佐和山城跡 ← 車で10分 ← 名神彦根IC

▲石田会館前の石田三成像

▲大原観音寺の「三成水汲みの井戸」

▲己高山から望む琵琶湖

「三成お手植えの藤」と大谷吉継の首塚、嶋氏館跡

JR米原駅 ← 徒歩10分 ← 大谷吉継の首塚 ← 徒歩25分 ← 朝妻神社（彦星） ← 徒歩10分 ← 蛭子神社（織姫） ← 徒歩5分 ← 春日神社（石田三成お手植えの藤） ← 徒歩15分 ← 山内一豊母の墓 ← 徒歩5分 ← 坂田神明宮 ← 徒歩5分 ← 嶋氏館跡 ← 徒歩5分 ← 千代の里像 ← 徒歩すぐ ← JR坂田駅

▲大谷吉継の首塚

▲春日神社（世継）の「石田三成お手植えの藤」

▲「嶋氏館」の碑がある春日神社（飯）

佐和山城跡と伝・三成屋敷跡

JR彦根駅（東口） ← 徒歩25分 ← 龍潭寺 ← 徒歩1分（登山口） ← 佐和山城跡（ハイキング75分） ← 徒歩5分 ← 伝・三成屋敷跡 ← 徒歩5分 ← 仙琳寺（石田地蔵） ← 徒歩10分 ← JR彦根駅（東口）

※JR彦根駅（西口）から龍潭寺までは「ご城下巡回バス」やレンタサイクルが便利（P.7参照）

▲龍潭寺

佐和山城跡ハイキングコース

龍潭寺 ← 15分 ← 切通し ← 3分 ← 塩硝櫓跡 ← 2分 ← 西の丸跡 ← 10分 ← 本丸跡（山頂） ← 5分 ← 隅石垣※ ← 5分 ← 千貫井

※復路は同じ道を引き返す

▲隅石垣

▲佐和山山頂

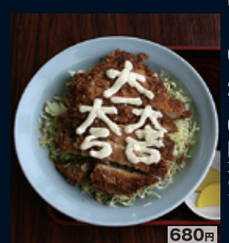
▲塩硝櫓跡

MEET 三成！

七本鎗上撰原酒「石田三成」
冨田酒造
所 長浜市木之本町木之本1107
電 0749-82-2013
開 9:00～18:00 休 火曜

720㎖ 1,429円+税　300㎖ 740円+税

三成勝丼
アル・プラザ彦根 6F 四季菜（しきな）
所 彦根市大東町2-28
電 0749-22-6707
開 11:00～20:00 休 不定


680円

図録『石田三成と湖北』
長浜城歴史博物館ミュージアムショップ
所 長浜市公園町10-10
電 0749-63-4611
開 9:00～17:00 休 12月27日～1月2日

1,000円

石田三成タペストリー
ひこね街の駅 戦國丸
所 彦根市河原3-4-36
電 0749-27-5058
開 11:00～18:00（変動あり） 休 水曜

6,800円

MITSUNARI 11
「まちなか博物館」企画展示
所 彦根市本町2-13夢京橋あかり館2F
電 0749-27-5501
開 9:30～17:30 休 火曜
¥ 大人200円、小中学生100円

©HIDEKI MIYASHITA / KODANSHA

石田三成関連本
石田会館
所 長浜市石田町576
電 0749-62-8285
開 平日9:30～12:00 土日祝13:00～17:00 休 不定

1,200円+税　1,500円+税　1,900円+税　1,000円　880円

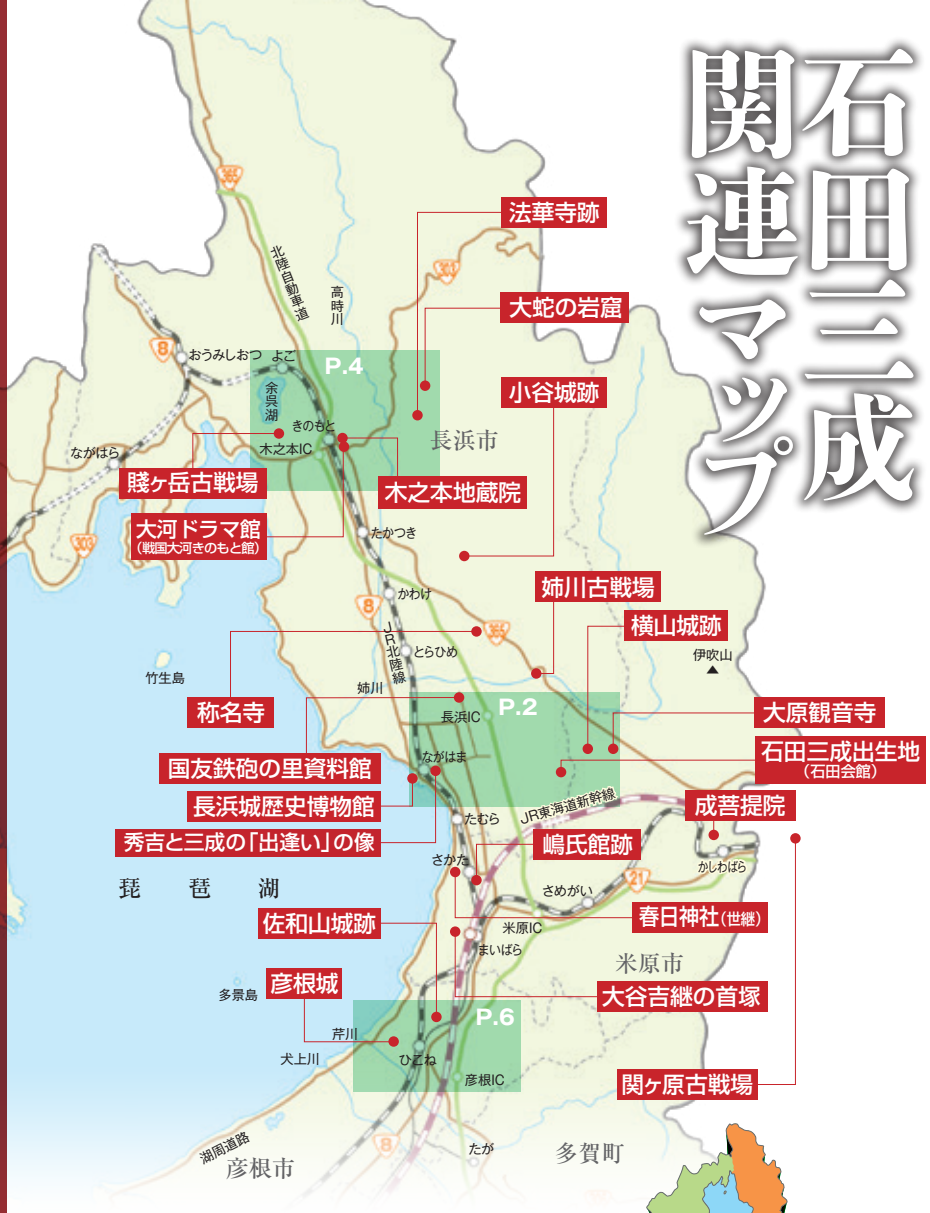
石田三成関連マップ

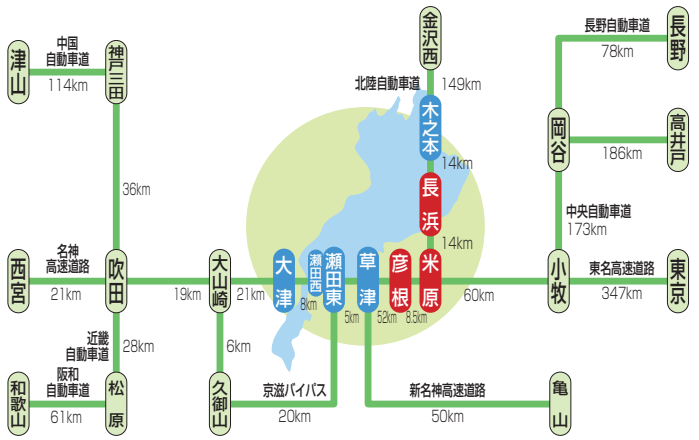
三成会議
MITSUNARI MEETING

長浜市・米原市・彦根市の石田三成公を慕う団体などが集結し「三成公十九万四千石の故郷」として三成公の魅力を全国に発信。「石田三成に逢えるまちづくり」を宣言し、全国の三成公ゆかりの地に参加を呼びかけている。お問い合わせは下記まで。

■長浜市観光振興課　☎0749-62-4111
■米原市商工観光課　☎0749-58-2227
■彦根市観光振興課　☎0749-30-6120

最新情報は「三成会議」公式Facebookページをチェック!
https://www.facebook.com/mitsunarist





北近江(米原)まで お車でお越しの場合

- 東　京…東名高速東京ICより約410km(所要時間:約5時間10分)
- 名古屋…名神高速名古屋ICより約88km(所要時間:約1時間10分)
- 金　沢…北陸自動車道金沢西ICより約180km(所要時間:約2時間20分)
- 大　阪…名神高速吹田ICより約110km(所要時間:約1時間30分)

北近江(米原)まで 電車でお越しの場合

- 東京から新幹線で約2時間10分
- 金沢から特急で約2時間
- 岡山から新幹線で約1時間55分
- 名古屋から新幹線で約30分
- 新大阪から新幹線で約40分
- 福岡から新幹線で3時間25分

MEET三成　長浜・米原・彦根 ■ 平成26年3月15日発行
発行●びわ湖・近江路観光圏協議会[石田三成連携事業]　編集●サンライズ出版　制作●Qve[design communication]　協力●石田三成公事蹟顕彰会／佐和山城研究会